

10項目からなる自尊心尺度を100名に実施したデータを因子分析し、因子構造を検討したい。

自尊心尺度の項目内容は以下の通りである。

◎ **自尊心尺度の項目内容** (項目内容は、桜井[34]、1997による)

- SE1 私は、自分に満足している
  - \*SE2 私は、自分がだめな人間だと思う
  - SE3 私は、自分には見どころがあると思う
  - SE4 私はたいいていの人がやれる程度には物事ができる
  - \*SE5 私には得意に思うことがない
  - \*SE6 私は、自分が役立たずだと感じる
  - SE7 私は自分が、少なくとも他人ぐらいは価値のある人間だと思う
  - \*SE8 もう少し自分を尊敬できたらと思う
  - \*SE9 自分を失敗者だと思いがちである
  - SE10 私は自分自身に対して、前向きな態度をとっている
- ( \* 逆転項目 )

回答は「1.全く当てはまらない」「2.あまり当てはまらない」「3.どちらともいえない」「4.やや当てはまる」「5.とてもよく当てはまる」の5つの選択肢のうちどれか1つに○をつける形式で測定されている(5件法という)。なお逆転項目とは、1.に○をつけたら5点、5.に○をつけたら1点といったように、得点を逆向きに算出する項目のことである。

100名分のデータは以下の通りである。なお以下のデータは、すでに逆転項目の処理を行ったものである。

データを入力する際には、名前にSE1などの変数名を入力し、ラベルに変数名と項目内容(文章)を入力しておくこと、結果が理解しやすくなるだろう。